

道小理事研 報告（各課懇談会）

第1分科会「学校における働き方改革」について報告します。

「働き方改革と部活動」「働き方改革と教育課程」の2本の提言と部活動にかかわる追加意見が2つ、教育課程にかかわる追加意見が1つ出されました。

1つ目は、(北海道中学校長会経営部長 江別市立大麻東中学校 三浦崇史校長から)部活動改革について、特に、休日の部活動の段階的な地域移行についての提言でした。

部活動指導員制度について、配置が思うように進んでいない現状を踏まえ、今後の計画について質問するとともに、人材確保の方法について触れられ、民間人材の活用の仕組みの構築、休日の部活動指導を希望する教師についての兼職兼業の仕組みの整理、保護者による費用負担や自治体による減免措置等の仕組みの整備、国による支援方策の検討などの必要性を訴えました。

また、学校部活動と地域部活動の連携、接続の必要性を訴え、部活動改革についての進捗状況、成果と課題を踏まえて、さらなる計画の推進をお願いしました。

2つ目は、全道の働き方改革の取組状況とその成果と課題について（北海道小学校長会経営部長 旭川市立朝日小学校 橋本 彰校長先生がまとめられたものを、事務局次長の山村校長が代読されました）です。

取組が進んでいる内容として4点。

- ①校務支援システムやタブレット等の効果的な活用による事務作業の効率化
- ②勤務時間の管理と目標値の設定
- ③学校行事の精選や運営の見直し
- ④専科の加配、スクール・サポート・スタッフや補助指導員等の配置による業務軽減併せて、専科・加配ではなく、定数改善が望まれる。

工夫改善が望まれること、新たな課題として2点。

- ①授業改善に向けた教材研究、学級通信の作成等、保護者との連携に要する時間の確保にかかわっては、数値目標の設定を背景とした職員の戸惑いや疲弊感が増加していること。
- ②学校運営協議会の活用については、コロナ禍で開催自体が難しいこともあり、不十分なところが多く、地域・保護者から一律に理解を得るには、まだ時間がかかること を伝えました。

提言 1 に関わる追加意見として、

(北海道中学校長会経営部幹事 畠山 学校長先生から)

「合理的で効率的な部活動の推進」の側面から、合同部活動について触れ、本道の広域性、郡部の過疎化等を考慮したルール改正の必要性と問題点を指摘するとともに、地域部活動推進事業の成果と課題を踏まえた、関係団体との連携強化をお願いしました。併せて、文科系部活動についても、大会・コンクールの適切な運用について関係団体に働きかけるようお願いしました。

(また、北海道公立学校教頭会 副会長 山口教頭からは)

部活動の地域移行の具体的なロードマップや各自治体へのフォローアップを示してもらえるようお願いするとともに、中体連大会の引率業務、特に学校には設置していない種目での中体連大会への出場を支援するに当たっての負担の大きさについて触れ、道教委と中体連の協議のうえで整理されることを要望しました。

提言 2 に関わる追加意見として、(北海道小学校長会 経営部幹事 小野校長先生が)「働き方改革と教育課程」の視点から、取組を進めるためには、校長のマネジメントとともに、学習指導員やスクール・サポート・スタッフの配置や小学校高学年における教科担任制等の施策、人的、物的な支援が不可欠であること、ICT 活用によるメリット、そして、最も難しいであろう「地域との協働」を進めるための校長としてのビジョンと手腕の重要性について意見を述べました。

これらの提言や追加意見を受け、道教委の担当課長からは、みなさんのお話を受け止めて、子どもたちと向き合える時間を生み出すとともに令和の日本型教育の実現、そして教員という仕事をいかに魅力あるものにするかという視点から、今後も働き方改革を進めていけるようにしていきますとのお話がありました。